

第7回仙台市交通事業経営検討委員会 議事概要

- 日 時** 令和6年12月5日（木） 15：00～17：00
- 場 所** 仙台市交通局本庁舎 7階 研修室
- 出席委員** 鈴木高宏委員、鈴木文彦委員、成田由加里委員、福嶋路委員 [4名]
- 事務局** 吉野交通事業管理者、平嶋次長、氏家次長（自動車担当）、吉川次長（地下鉄担当）、橋浦総務部長、三浦自動車部長、中村鉄道管理部長、横田鉄道技術部長、総務課長、経営企画課長、財務課長、事業企画担当課長、事故防止・接遇向上担当課長、参事兼輸送企画課長、運輸サービス課長、整備課長、営業課長、安全推進課長、駅務サービス課長、運転課長、施設課長、車両課長、電気課長、企画係長、他担当者 3名
- 議 事**
- 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 収支見通しの見直し
市バス運賃改定及び今後の進め方について
 - (2) 新たな取組みの検討
 - ① 市バス・地下鉄アンケートの実施について
 - ② 市バス・地下鉄ファンを増やす取組みについて
 - 3 その他
 - ・新経営計画策定に向けた今後の委員会スケジュール案について
 - ・バス運転手の職名変更について
 - 4 閉会
- 会議資料**
- 資料1 市バス運賃改定及び今後の進め方について
- 資料2 市バス・地下鉄アンケートの実施について
(資料2別紙 「市バス・地下鉄アンケート」内容)
- 資料3 市バス・地下鉄ファンを増やす取組みについて
- 資料4 新経営計画策定に向けた今後の委員会スケジュール案について

1 開会

○事務局（経営企画課企画係長）

ただいまより第7回仙台市交通事業経営検討委員会を開催させていただきます。

まず、委員会の成立について確認をさせていただきます。本日は、長江委員が都合によりご欠席となりますが、鈴木委員長のオンラインでのご出席を含めまして委員4名にご出席いただいております。仙台市交通事業経営検討委員会設置要綱第6条第2項に基づきまして、過半数の定足数を満たしておりますので、委員会が成立しておりますことをご報告いたします。

また、設置要綱第6条第3項において、会議は公開としております。
議事要旨につきましては、会議終了後に遅滞なく公開するものとしております。
それでは、ここからの委員会の進行を委員長にお願いしたいと思っております。どうぞ
よろしくお願ひいたします。

2 議事

○鈴木（高）委員長

ただいまから第7回仙台市交通事業経営検討委員会を開会いたします。

本日の議事録署名委員の指名につきましては、委員会で決めました順番に従いま
して福嶋委員に本日はお願いしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

それでは、議事に入りたいと思っております。

議事（1）収支見通しの見直し 市バス運賃改定及び今後の進め方について、事
務局よりご説明をお願いいたします。

〔資料説明〕

資料1 市バス運賃改定及び今後の進め方について

○鈴木（高）委員長

ただいまの説明について、ご意見、ご質問等お願ひいたします。

○福嶋委員

市バスの運賃改定について、既にマスコミで報道されていると思うのですが、反
応はいかがでしょう。市民からの問合せや、反対意見は届いていますか。

○経営企画課長

各新聞や地元テレビ局において報道され、現時点では、経営企画課へお客様から
2件ほどお問い合わせがありましたが、運賃改定そのものを強く反対するようなご
意見はありません。

○鈴木（文）委員

資料4ページにおける新たに算出した乗車人員の見通しは、全国的に見ても標準
的な推移だと思います。

これまで多くの交通事業者が26～27年間運賃改定をしてこなかった実態があり、
ここ2年間でかなりの事業者が運賃改定を実施しています。私も首都圏の事業者か
らいろいろ相談を受ける機会がありましたが、実際のところ、運賃改定をしても大
きな反発はなかったようです。また、以前は運賃改定後に利用者が減少することが

ありましたが、今回の各地の様子を見ていると、利用者数の減り幅は非常に少なく、すぐに戻ってきている様子が見られます。そういった状況をみても、本来なら、これまでも適切に運賃改定を行ってくるべきだったのだろうと私は思っています。今回、適正な運賃改定を行うことによって、大雑把に言えば「いただくものはちゃんといただいていく」。周辺の物価や必要経費が上昇しているのは間違いないので、収支を賄っていくという考え方で進めるべきだと思います。そのため、今回の運賃改定は、ぜひ進めていただきたいと思います。

首都圏の運賃改定状況を見ても、反対意見はほとんど出ていません。つまり、初乗り運賃が数十円上がったとしても、今の社会状況なら仕方がないという反応が非常に強いです。もしかしたらICカード利用が9割を超えている中で、値上げに気付かない人もいるかもしれないですが、それを差し引いても、受け入れられていると思います。私はこの方向で進めていただければと思います。

○交通事業管理者

ただいまご説明した運賃改定の資料については、市議会・全会派にも説明しております。明日から第4回定例会が始まり、議案として提出はされておりましたが、各会派からいろいろと確認をされており、一定の質問をいただくものと考えております。

今お話があったような乗車人員の見込みについても、市議会の各会派から質問をいただき、各指定都市の事業者と情報交換したり、本委員会の委員の皆様よりいろいろとお話を伺ったりして推計しておりますが、人件費や、海外の戦争等の影響に伴う燃料費の高騰などは、見込むのがなかなか難しいところです。例えば敬老乗車証や運賃改定に伴う逸走についても、当初の想定より、実際の足元の状況では、利用者が意外と減っていないことも承知しているのですが、逸走が回復するまで5年ほどかかるのではないかと、固めに予測しております。というのも、経費的な部分を10年間で見通すのは難しく、そこは一定のバッファも必要かと考えております。公営企業会計は国の指針により、10年の収支計画を作るよう求められていますが、一方で、そういった見通しが難しい経費等があるので、策定後5年経過する令和12年度には、改めて収支計画も見直す必要があると考えています。

いずれにしましても、平成7年以降、抜本的な運賃改定をしていないことから、市民の皆様にも丁寧に説明をしてまいりたいと考えております。令和6年度決算を踏まえて議会へご説明し、各区における市民説明会の開催やホームページへの掲載を行った後、パブリックコメントを実施し、最終的に議会に議案を提出するという流れで考えております。

○鈴木（高）委員長

30年近く運賃改定を実施していないので、市民に対して丁寧に説明をしていただくのは非常に良いと思っております。

ただ、少しご注意申し上げたいのは、今後の考え方です。これだけの社会状況の変化がありながら30年近く運賃を見直さずに来たことで、大きく積み上がってしまった部分があると思います。今後、こういった見直しを、状況に応じて随時行っていくのが本筋かと思えます。もちろん、市民への丁寧な説明は必要だとは思いますが、説明が重くなり過ぎて、今後の運賃改定に及び腰にならないようお願いしたいです。

○福嶋委員

資料4ページの市バス乗車人員の見直しについて、令和9年からやや上昇しているようですが、どのような要因で増加する予測をしているのでしょうか。

○経営企画課長

一つの見方によっては増加していくように見えますが、これは、資料5ページの②～④の条件を見込んだ算出となっております。敬老乗車証の制度変更や今回の運賃改定による乗車人員の減少など、様々な減少要因を見込んでおり、5年程度でその影響がない程度の水準まで回復すると推計しております。ご指摘のように令和9年度から令和13年度くらいまで増加しているように見えるのですが、これは徐々に減少要因の影響が少なくなってきたらとご理解いただければと思います。

さらに言い方を変えますと、資料4ページのグラフにおける令和5年度の93千人から、様々な減少要因の影響がなくなるのが令和13年度の98千人と予測しております。ただいまご説明したような減少要因がなければ、この93千人から98千人まで少しずつ増えていくというカーブを描くこととなります。それが本来なのですが、減少要因で少しずつ下がっているのが赤い実線となります。

○交通事業管理者

推計に当たっては、通勤・通学定期、学都仙台フリーパス、敬老乗車証などの券種別や、ICカードにチャージをして乗車する方など、一つ一つの券種の推移を見ていまして、それらを合わせたものがこのグラフです。それにプラス・マイナスの要素があり、例えば敬老乗車証制度変更による逸走率をかなり高めには見ていたのですが、今年度決算見込を見ても、それほど逸走していないものもあり、推計が難しいところもあります。令和13年度では1日あたり98千人ですが、これは令和元年度比で95%の数値です。他の政令市においても、令和元年度実績までは回復せず、約9割の見込みがピークではないかという声もあります。令和13年度以降下がるの

は、人口減少傾向をふまえたものであり、他都市よりは遅く、高齢者が増えることにより少し緩やかではあるのですが、そういった要素などを考慮して推計しております。

ただ、こういった事情も5年経つと変わる可能性もあるので、10年このままの計画で進めるのは難しいと思っております。いろいろな取組による効果も組み合わせながら、令和12年度に改めて見直さなければいけないと考えております。

○鈴木（高）委員長

非常に大事なところですよ。乗車人員予測について、もともと東西線開業の際にも先立つ委員会の中で議論をしながら、予測が変わってしまい現在に至っているという経緯もありますので、予測は予測としておきつつ、随時、最新状況をチェックして、必要な軌道修正を遅滞なく行えるようにするべきだと思います。

特に、資料11ページのバス利用状況に係るデータ分析システム基盤の構築については非常に重要だと思います。地元大学の先生方など有識者にいろいろな意見を伺える体制を含め、考えていただきたいと思っております。オープンデータというのは交通に関しても非常に大事なトレンドになってきていると思います。

○成田委員

資料6ページ、7ページで運賃制度の説明がありましたが、障害者に対する市バス運賃の支援として、どのような制度があるのでしょうか。

○経営企画課長

障害者の方への運賃制度としては、まず、仙台市健康福祉局による、ふれあい乗車証制度がございます。障害の程度など対象条件に該当される方は無料で市バスをご利用いただけます。

また、交通局としては、ふれあい乗車証の対象にならない方でも、障害者手帳をお持ちの方を対象とした障害者割引制度として、普通旅客運賃が半額になる制度等を設けております。

○成田委員

資料8ページの収支見通しにおいて、(2) 一般会計補助金については「現行の算定方法に基づく」という説明がありますが、乗車料収入に対して一般会計補助金が少くない金額かと思えます。どのような算定を行い、どこを目指していらっしゃるのかお伺いしてもよろしいでしょうか。

○経営企画課長

一般会計補助金につきましては、定額で補助されているものと、バス路線の営業収支における赤字補填として補助されているものがございます。この定額補助と赤字補填補助を合わせて、資料8ページにおける25億円から28億円という推計をしております。

○成田委員

そうしますと、運賃改定の検討をするときに、その赤字補填の割合や路線なども勘案されながら改定されると考えてよろしいですか。それとも、一律15%で改定する方向性なのでしょうか。決まっていれば教えていただければと思います。

○経営企画課長

今回の運賃改定により増収となった場合、赤字補填としての一般会計からの繰り入れ金は一定圧縮されることとなります。その結果が定額補助と合わせて二十数億円となります。補助金の支給条件の見直しは今のところ考えておらず、資料9ページにおける現行の算定方法に基づく考えで今回は試算しております。

このような増収と一般会計補助金との兼ね合いもあり、令和8年度から12年度において、資料8ページ(6)出資金がなければ、資金不足比率が20%を大きく超える状況になります。そのため、従来の補助金とは別に、追加で一般会計から支援していただくことで現在協議を進めている状況でございます。

(注：今回の計算上は、一律に改定をした場合の補助金額となっているが、運賃改定の値上げのしかたは、現在検討中。)

○鈴木(高)委員長

それでは、議事(2)新たな取組みの検討 ②市バス・地下鉄アンケートの実施について、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

[資料説明]

資料2 市バス・地下鉄アンケートの実施について
(資料2別紙 「市バス・地下鉄アンケート」内容)

○成田委員

アンケートの目標サンプルを600件としていますが、1人が1件のみアンケートを回答できるという点は、どのように確認されるのでしょうか。1人の方が複数回答することは、あまり想定しにくいかもしれませんが、どのように確認するのでしょうか。

○鈴木（高）委員長

オンライン申請サービスでの実施とあるので、そこである程度個人が特定されるということなのではないでしょうか。詳しく説明していただけますか。

○事務局

このアンケートについては電子申請で、プレゼント応募に関しては個人情報を入力していただくため、1人1件の申込みとさせていただきますのですが、回答に関しましては、複数回答も可能な仕組みになっております。

○成田委員

そうすると、必ず個人が特定されるということですか。

○事務局

プレゼントの応募をしていただく場合には、郵送先やご氏名などを記入していただくので個人を特定できますが、回答のみにとどめることもでき、複数回答も可能になります。

○鈴木（高）委員長

このオンライン申請サービスを複数回利用したら、複数回アンケート回答が可能になるということですね。

○事務局

そのとおりです。

○鈴木（高）委員長

私は学生に統計学を教えている関係でお話しすると、無作為調査という観点では、オンライン申請サービスに伴い少し偏りが生じると、本来はいまひとつよろしくない調査方法と教えている立場にあるのですが、今回の利用については、これが交通局の調査方法として妥当であるということなのですね。調査方法に関することかと思いますが、何か補足説明はありますか。例えば高齢者の方のような、オンラインが苦手な方の意見を今回のアンケートで収集し切れないことが懸念されるのですが、いかがでしょうか。

○経営企画課長

幅広い調査という観点での弱さについては、ご指摘のとおりかと思っております。

今後ご意見をいただく場としては、運賃改定における市民説明会や、計画の中間案のパブリックコメントなども実施してまいりますので、そういった機会でお声をいただきたいと考えております。

○平嶋次長

委員長がおっしゃった調査方法を含め、設問内容もまだ確定しておりませんので、いろいろご意見いただきながら、検討させていただきたいと思っております。

○鈴木（高）委員長

この電子申請サービスを使う形で、コストも考えつつ、個人情報保護を行っていただくことも大事なのですが、（インターネットを使えない方など）そこで漏れてしまうような方のアンケート収集についても併せて検討していただくと、より良いかと思っております。

○成田委員

先ほどお伺いした1人1回だけアンケートに回答できるという点についても、少し補強する形で、市民に説明できるようご検討をお願いします。

○鈴木（高）委員長

アンケートの質問項目数が多いので、あえて複数回答の方がいらっしゃることは少し考えにくい部分もあるとはいえ、やはりアンケート結果を変更させるような意図を持つということが全くないとは言えないので、ご注意をいただくべきだという趣旨かと思っております。よろしくをお願いします。

○鈴木（文）委員

ふだんバス・地下鉄を利用しない方の意見も重要だというのは、本当にそのとおりだと思います。その観点で設問を見ると、例えば設問12番（日頃路線バスを利用しますか）と14番（路線バスについて、特に不便だと感じることや改善すべきことを選んでください）、あるいは15番（日頃仙台市地下鉄を利用しますか）と16番（仙台市地下鉄について、特に不便だと感じることや改善すべきことを選んでください）でクロスすれば分かるのですけれども、利用しない人がなぜ利用しないのかという分析がちゃんとできるようにしておく必要があるかと思っております。非常に重要なことは、なぜ利用しないのかということなので、そこが明らかになるとさらに良いと思えました。

また、今回のアンケートに反映してほしいという意味での意見ではないのですが、仙台の場合は、観光やビジネスなど、外部から来る人がたくさんいる都市ですよ。

そういった外部から来た方が本当に市バス・地下鉄を利用しているのか、調査する必要があると思っています。ウェブで調査を行うのであれば、そういった調査も今後実施しても良いと思います。

というのは、以前、他県のバス事業者の方と一緒に仙台を訪れたときに、その方が、仙台市内でバスに乗れなかったことがありました。結局、情報が不足していたり、見てもよく分からなかったり、プロの人間も乗れないという事例もあります。それから、例えば、仙台の人は当たり前前に定禅寺通りを「じょうぜんじどおり」と読んでいますが、恐らく外部の方はすぐに読めません。ですから、そういったことも含め、外部の方がバスや地下鉄を利用できているかどうか、乗ってもらえるようにするにはどうしたら良いのか、分析できるような調査も、今後検討していただけるとありがたいと思います。

○鈴木（高）委員長

非常に大事なご指摘です。特に後半の部分については、経営計画において、インバウンド対応等含め、外部からのお客様にとって、路線バスが使いにくいという点を改善するというのは重要な視点になりますので、しっかりと考えていただければと思います。

一方で、前半の質問なのですが、アンケートの例えば14番、16番、18番（公共交通を利用しない理由は何ですか）において、利用しない理由、不便だと感じる理由という項目があるのですが、これは委員の目から見て、まだ足りていない部分があるというご指摘でしょうか。

○鈴木（文）委員

足りていないというよりも、不便だと感じること、改善すべきだという設問は、どうしてもバスや地下鉄を利用している側からの意見かと思っています。利用していない人にとっては、そもそも利用していないのだから、改善すべき点など、自分には関係ないように思ってしまう場合もあるかと思ったのです。

○鈴木（高）委員長

そもそも自分の認識に上がってこないという項目が、選択肢の中に少し欠けているということですね。

○鈴木（文）委員

そうですね。そのため、12番で「全く利用しない」と答えた人が、14番で不便だと感じることや改善すべきことをしっかり答えられれば良いと思います。

○鈴木（高）委員長

「近くにバス停がない」といって、本当はあるのですけれども、バス停を探そうとも思わないということですね。

○鈴木（文）委員

無関心な人は、意識もしていないことがあるので。

○鈴木（高）委員長

そうですね。そういった点を項目の一番上に持ってくるという非常に大事なご指摘をいただきました。今の整理の上で、お答えいただいてもよろしいでしょうか。

○経営企画課長

まず、現時点での案として質問項目を提示させていただきまして、今ご指摘のあった、利用しない方に着目した統計は、クロス集計をしながら、分析をしていきたいと考えております。

また、お答えしにくい部分については、オンライン申請サービスの仕組みを確認しつつ必要な手直しをしたいと考えております。基本的には、アンケートに回答していただくことで、必要な回答箇所が自動的に示されて進んでいく仕組みになりますので、そこで回答が漏れないようにしたいと考えております。

アンケート内容につきましても、後ほどさらに詳しくご覧いただき、ご意見等いただきまして、必要な手直しを重ねてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木（高）委員長

重ねて申し上げますが、集計してから検討というよりも、設問として、そもそも車を使うのでバスや地下鉄が要らないとか、子供が多いのでバスには乗りにくいとか、そういった選択肢が先にあれば良いといった話かと思しますので、順番を見直すことも含めて再度精査していただければいいかと思します。

○福嶋委員

問題数が多い印象があります。調査する時は、仮説を持って実施すると思うのですが、今回の調査によって知りたいことはあるのでしょうか。あるいは、現状を調査するのでしょうか。

○経営企画課長

知りたいことは様々で、ある程度仮説をもっていろいろな選択肢を設けているのですが、先ほど鈴木委員からお話のあったように、バス・地下鉄を利用しない方がなぜ使わないのかという点は、特に把握したいと考えています。もちろん利用される方のご意見も含めて把握はしたいと思っておりますが、利用しない方に関して特に今回、意識しているところです。

○福嶋委員

「何があったら利用したいか」といった自由記述はいかがでしょうか。今まで利用していなかったが、駅にこういう工夫があれば使いたいといった自由記述の項目があれば良いと思っております。

○経営企画課長

任意で記載いただく項目もありますので、そこについても、なお改めて検討してみたいと思っております。自由記述を設ける場所についても検討させていただければと思います。

○鈴木（高）委員長

次に、議事（2）②市バス・地下鉄ファンを増やす取組みについて、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

[資料説明]

資料3 市バス・地下鉄ファンを増やす取組みについて

○福嶋委員

市バス引退車両「ありがとう・さよなら撮影会」で、申込者が262名に対し参加者が21名に絞られたということですが、絞らなければならなかった理由は何かあるのでしょうか。

○経営企画課長

こちらは、バス車両のガラスが青い「青ガラスバス」が非常に珍しく、その車両で薬師堂駅から会場の霞の目営業所まで送迎を行うため、このバスに乗車する定員の関係で21名という形で実施したところです。

○福嶋委員

車両に対して思い入れがある市民が意外にたくさんいるという印象だったのですが、もう少し間口を広げて、いろいろな市民に撮影させてあげてもよかったですか

など思った次第です。

○経営企画課長

市民の方ももちろんですが、実は、全国各地からお申し込みいただいております。やはり好きな方は足を延ばしても参加したいという気持ちがあるようで、市外からの参加者が多かった状況でした。

○鈴木（高）委員長

再確認ですが、送迎で乗車できた21名というのは、撮影できる方と同数だったのですか。

○経営企画課長

今回は有料イベントとさせていただき、25名という枠を設定しておりました。そのバスに乗車して営業所に来ていただいた方だけが撮影可能という形で実施いたしました。

○鈴木（高）委員長

青ガラスバスに乗車できなくても撮影だけ可能、という形にしたら、もう少し多くの方に対応できた可能性もあると思います。有料にしても応募いただいたわけですから、自腹でそこまで駆けつける方は十分いらっしゃるという印象です。また、なるべく広く間口を広げるような検討をしていただければと思います。

仙台市のバスは、古くなってきたと言いつつ、逆に言うと、他の地域から見れば中古車両が走るミュージアムのように思っていますので、積極的に生かしていただけると良いかと思えます。

○鈴木（文）委員

有料イベントはどのくらいの金額で実施されましたか。

○経営企画課長

2,500円です。

○鈴木（文）委員

こういったイベントは、どちらかというとマニアの人達が食いつく話なので、最近鉄道も同様のイベントが増えており、金額を高く設定しても希望者が多いです。そういう意味からすると、稼ぐ手段としても良いかと思えます。企画のやり方によってはもっと稼げる可能性もありますので、知恵を絞っていただければと思います。

○鈴木（高）委員長

1日だけと言わず、何日間か企画を行うのも良いかもしれないです。

○経営企画課長

今回初めて実施したイベントということもあり、手探りで金額を設定したところでしたが、ご参加いただいた方にアンケートを取りましたら、お好きな方からは、この金額はかなり安過ぎる、もっと何倍の金額でもいい、というお声をいただきました。そういったお声も踏まえつつ、今後のイベント機会を考えていきたいと思えます。

○鈴木（高）委員長

マニアの方や、本当に好きでいる方にとっては、非常に高い価値があると思えます。その価値をちゃんと見える化して、市民の方にもう一度市バスの価値を見直していただく良い機会になるかと思えますので、ぜひよろしくお願ひします。

このあたりも含めまして、非常に多岐にわたって取組みを検討していただいていると思えます。

○成田委員

今のお話を聞いて、バスの価値を再認識した次第でございますが、市バス・地下鉄ファンを増やすための取組みに関して、バスを移動手段として調べられるアプリはあるのでしょうか。仙台市の場合は、移動手段を調べるときにはGoogle Mapに頼りがちで、その過程の中でバスが利用できるのであればバスが検索結果に出てくるというような状況ですよね。

○参事兼輸送企画課長

バスの運行状況につきましては、まず、バスロケーションシステムというのがありまして、バスが今どこを走っているか、今自分がいるバス停に目的のバスが何時頃来るかを案内する「どこバス仙台」というサービスがございます。

また、Google Mapにもバス時刻表やバス停の位置などは表示されるようになっておりまして、Googleで経路検索しますと、Google上のアルゴリズムに応じた適切な経路が検索されるようになっています。

これに加えて、オープンデータ化を進めておりまして、リアルタイムの運行情報もGoogle Mapに掲載できるよう、現在、国のオープンデータ協議会も含めて取組みを進めているところです。できれば来年度ぐらいにはリアルタイムで自分の乗りたいバスが今どこを走っていて、あと何分くらいで来るというような情報も提供で

きるようなことを実現させたいということで進めているところでございます。

○成田委員

そうすると、行きたい場所を入力すれば、どのバス停から乗れば良いか示される仕組みができつつあるということですね。

○参事兼輸送企画課長

現状よりさらにブラッシュアップして、改善する方向で取組みを進めているところでございます。

○成田委員

ファンを増やすための取組みに関して、現在の青とグリーンのととても素敵なバスのデザインは、歴史もかなりあると思いますし、もう既に十分愛されていると思うのですが、例えば市民からの応募によってさらに愛されるようなデザインにするといったことは、検討されていますか。ネーミングライツと申しますか、市民での皆様に向けて、皆さん応援してください、といったような企画はいかがでしょうか。

○交通事業管理者

決まりがあるわけではありませんが、仙台市のバスは、青とグリーンが独特で全国的にもご評価いただいております、先ほどの青ガラスバス写真撮影会のように、全国からファンがいらっしやっている事例もありますので、やはり歴史と伝統としては守っていきたいという思いはあります。とは言いながら、なかなか経営状況が厳しい現状ですので、増収対策として、今年度はラッピングバスを10台ほど増やすといった取組みもしております。

また、令和8年度に仙台市営交通100周年を控えており、バス・地下鉄ともに様々な企画を考えているところです。例えば、他都市においては記念のラッピングバスを募集する事例もありますので、全面的な改定は難しくても、そういった機会を捉えて検討していきたいと思っております。

令和7年度は地下鉄東西線が10周年を迎え、その次年度は仙台市営交通100周年なので、これを活用し、市民の皆様にアピールできる取組みについて、現在、知恵を絞っているところでございます。

○鈴木（文）委員

バスのカラーというのは、その地域の地域色を表す面があり、よく言われることなのですが、この色のバスが走っているのを見ると、ああ帰ってきたなという気がするものです。私は大幅に変えるのは慎重に考える必要があると思っておりますが、

色のイメージを残しながら、今の社会構造に合わせた変更をするのは良いと思います。100周年を機にどのようなことが可能か検討していただいて、いずれにせよ現在のグリーンのイメージは、市民や外部から仙台を訪れる人にとっても、定着しているカラーだと思いますので、守っていただけると良いと思います。

○交通事業管理者

私もそのように思っており、イベントでの企画も検討していきたいと考えております。また、EVバスを導入予定なのですが、EVバスだと一目見てわかるようなアピールをしたいと考えていて、他の車両と同じデザインではEVバスかどうか分からないので、何か工夫できるよう、いろいろ考えております。

○鈴木（文）委員

どこでもやっているようなコンセントを描いたデザインはやめてほしいと思います。

○鈴木（高）委員長

ラッピングという手法もあり、期間限定で一斉に変えてみるのも盛り上がるので、広く考えてみると良いと思います。特にEVバス導入の際は、ぜひ大々的に市民の方にも啓蒙していただいて、デザイン募集などするのも良いかと思っておりますので、よろしくお願いします。

○成田委員

現在、イクスカすずめデザインのバスは走っているのでしょうか。

○自動車部長

現在はありません。

るーぶる仙台ですといろいろなカラーのバスが走っております。普通の乗合バスでは、七北田を走行している小型バス以外は全て同じカラーです。

○成田委員

素敵なバスなので、杜の都にふさわしい、良いバスだと思っています。ただ時々、正面がすずめだったらかわいいと思っています。すずめちゃん1号、2号といったバスがあって、7号を見たらラッキーなど、楽しみ方がいろいろあるのかと思いました。

○鈴木（高）委員長

以前、バスだけではなく、首都圏の地下鉄でも、一部の編成で古いレトロカラーの車両があり、マニアに人気が出たという事例がありますので、いろいろ考えてみると良いと思います。交通局の若い職員も積極的に取り組んでいただくのもあり得るかと思います。

3 その他

○鈴木（高）委員長

それでは事務局からのご報告として、新経営計画策定に向けた今後の委員会のスケジュール案について、ご説明をお願いします。

〔資料説明〕

資料4 新経営計画策定に向けた今後の委員会スケジュール案について

○鈴木（高）委員長

この委員会では、非常に中身がある議論をさせていただいているところですが、新委員の追加委嘱ということで、また新しい視点からご意見等をいただけるようなご配慮だと思います。現委員の皆様方にも引き続き、よろしくお願ひしたいと思ひます。

最後に、バス運転手の職名変更について、ご説明お願ひいたします。

〔説明〕バス運転手の職名変更について

○総務課長

バス運転手の職名変更につきまして、口頭にてご報告を申し上げたいと思ひます。

仙台市交通局では、これまでバスの運転業務に従事する職員の呼称を「バス運転手」としていましたが、これを「バス運転士」と変更するというものです。

この職名の変更につきましては、以前、本委員会におきましてもご提案をいただいていたところす。近年は、ほかのバス事業者におきましても、有資格者としての位置づけの明確化、それによって職員のモチベーション向上やイメージアップを図るといふ観点から、「運転士」といふ職名が浸透しつつあるものと認識しております。

交通局におきましても、そのような状況を踏まえまして、年明けの1月から「バス運転士」の名称を用いることとしまして、現在、交通局及び市役所の関連部署における関係規定の見直しを進めているところす。

こういった見直しも合わせまして、引き続き、職員のモチベーション向上や人材の確保に取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいた

します。

○鈴木（高）委員長

この委員会で出ました要望を応えていただいたということで、大変喜ばしいことだと思います。委員長からも御礼を申し上げたいと思います。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。

4 閉会

○事務局

次回の検討委員会の具体の日程につきましては、改めてご案内させていただきます。

また、今回の議事録につきましては、事務局で原案を作成いたしまして、委員の皆様にごEメールで送信させていただきますので、ご確認をお願いいたします。

皆様にご確認いただいた後、議事録署名人の福嶋委員に議事録を郵送させていただきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、以上で第7回仙台市交通事業経営検討委員会を終了いたします。

本日はありがとうございました。